

三姉妹が描く人に優しい工房



写真上/光永幸弘さん 左から/三女の富田美貴子さん、二女の光永カオリさん、長女の遠山智美さん

父から経営引き継ぎ 三姉妹で力合わせて

ベビリーフ、サラダ野菜の生産・販売を行う「みっちゃん工房」。従業員19人で、8種類のベビリーフを季節に応じ栽培しています。

平成16年、スイカ農家だった光永幸弘さんがベビリーフの栽培を始めたのを機に、二女のカオリさんが就農。三女の美貴子さん、長女の智美さんも次々に加わり、三姉妹での挑戦がスタート。平成22年にカオリさんが経営を引き継ぎ、平成27年に(株)みっちゃん工房を設立しました。

「当時、ベビリーフはあまり知られていませんでしたが、父を信頼していましたし、三姉妹でならやれるのではないかと思います」(智美さん)

『人』に優しい職場づくり

「人を豊かに、食を豊かに社会を豊かに」を経営理念として掲げ、従業員が安心して働ける環境づくりに取り組むカオリさん。「最初にくるの

が『人』で従業員を表しています。従業員を一番に考える姿勢は、祖父・父の代から変わっていません」と話します。

外国人技能実習生の受け入れも行っており、中には3年の技能実習期間を終えた後、特定技能の在留資格を所得し、再来日して働き続けている人もいます。

そんな『人』に優しい職場環境づくりが評価され、みっちゃん工房は令和5年度全国優良経営体表彰働き方改革部門で農林水産大臣賞を受賞しました。「従業員のみんなが喜んでくれてうれしかったです。地域の皆さんと触れ合える工房にして、恩返ししたいです」と笑顔を見せる智美さん。「もつと良くしていけるところもあるので、3人で頑張ります」と美貴子さんも続けます。頼もしい二人の言葉に、カオリさんは「三姉妹で一緒に仕事ができていると顔ほころばせます」。「自分たちのやり方で自分たちが描きたいように」。三姉妹の描く未来が広がります。

下段写真左から/2月28日、農林水産大臣から表彰を受けた美貴子さんとカオリさん/青々としたベビリーフ/広々としたハウスで育てられています

